

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和4年度農作物病虫害発生予察情報について

令和4年度農作物病虫害発生予報第11号を発表したので送付します。

令和4年度農作物病虫害発生予報第11号

令和4年11月1日
徳島県

I. 果樹

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月の予察灯調査において、勝浦町及び上板町での誘殺数は、各種カメムシともに平年に比べて少なく推移している(表1)。
- (2) 10月第6半旬におけるカンキツの巡回調査では、発生圃場率が25.0%、被害果率が0.4%と、平年(37.9%, 1.2%)並の発生である。
- (3) 高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 温州ミカン、カキやキウイフルーツ園等では、飛来を認めたら早急に防除を行う。

表1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年
10	1	25	73	220	35	298	59
	2	2	130	179	0	741	33
	3	4	49	63	1	294	10
	4	1	13	50	4	8	12
	5	3	1	39	6	6	10
	6		9	19		54	6
11	1		3	12		16	5
	2		26	19		74	2

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年
10	1	66	485	179	7	236	17
	2	3	461	110	2	264	5
	3	1	74	19	10	96	2
	4	9	7	6	1	5	0
	5	0	2	6	0	0	0
	6		4	2		1	0
11	1		0	0		1	0
	2		1	0		0	0

II. 野菜

冬春トマト

コナジラミ類(主にタバココナジラミ) (11月1日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%、寄生葉率が22.3%と、平年(68.8%, 5.6%)

に比べて高い。

(2)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。

(2)薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が44.3%、発病葉率が3.6%)。

(2)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(2)発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病葉率が0.3%と、平年(2.9%、0.1%)に比べて高い。

(2)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(2)発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬液は下葉の葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(2)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第5・6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が16.7%, 寄生葉率が1.5%と, 平年(60.0%, 11.9%)に比べて低い。なお, 被害果実は, 発生圃場率が16.7%, 被害果率が0.3%と, 平年(11.9%, 1.3%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

(1) 10月第5・6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が100%, 寄生葉率が32.8%と, 平年(86.2%, 16.2%)に比べて高い。

(2) 高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第5・6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が9.5%, 寄生葉率が0.5%)。

(2) 高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので, 薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

秋冬ダイコン

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が14.3%, 発生程度指数が0.1と, 平年(21.5%, 0.6)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アブラナ科野菜共通

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第5・6半旬のブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が47.1%と、平年(67.1%)に比べてやや低く、寄生株率は3.9%と、平年(15.6%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第5・6半旬のブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が17.6%、10株当たり寄生幼虫及び蛹数が0.0頭と、平年(21.3%, 0.1頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉裏に生息しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

モンシロチョウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第5・6半旬のブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が5.9%、10株当たり寄生幼虫数が0.0頭と、平年(9.5%, 0.1頭)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 若齢幼虫時の防除に努める。

秋冬ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.1%、発病株率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除効果が期待できない場合が多いので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防す

る。

(2)肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が8.9%、寄生株率が0.2%)。

(2)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギアザミウマ

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

(1)10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が55.6%、被害度が4.4と、平年(64.4%、3.2)並の発生である。

(2)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1)予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(77.8%)に比べてやや低く、被害度は0.2と、平年(7.1%)に比べて低い。

(2)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)被害葉は有力な発生源となるので、圃場周辺に放置せずに、速やかに処分する。

冬レタス

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が20.0%と、平年(13.6%)に比べてやや高いが、寄生株率は0.6%と、平年(0.6%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

冬春ハウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)徳島県では、本病原菌レース1～13まで確認されているため、品種はレース1～13に抵抗性があるものを利用する。
- (2)病原菌は被害株上で越冬し、春になると分生胞子を形成して伝染源となる。春先の発生を抑制するために、薬剤を予防的に散布して伝染を防止する。
- (3)葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が13.2%、1株当たりの寄生虫数が0.0頭)。
- (2)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難となるので初期防除に努める。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が3.7%、発病葉率が0.0%)。
- (2)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)発生が多くなってからでは防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2)罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3)古葉を早めに除去し、葉裏に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が15.4%、寄生株率が1.8%と、平年(26.9%, 2.8%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が15.4%と、平年(23.9%)並の発生であるが、寄生葉率は0.2%と、平年(2.3%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第5・6半旬のブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が35.3%、寄生株率が2.0%と、平年(38.5%, 2.9%)並の発生である。
- (2) 10月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査9地点の平均)は、ほぼ平年並に推移している(図1)。
- (3) 高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

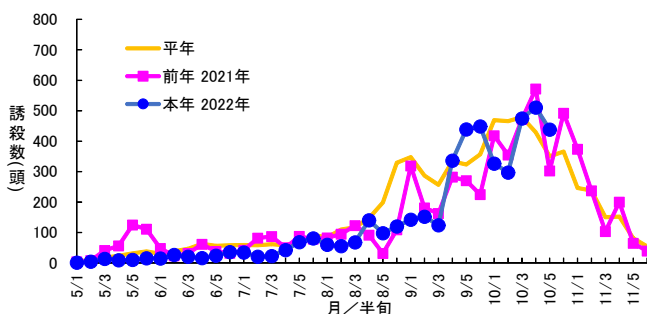


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市,東みよし町,三好市の9地点平均

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1)10月第5・6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が17.6%、寄生株率が0.6%と、平年(12.8%, 0.7%)並の発生である。
- (2)10月第5半旬における冬レタスの巡回調査では、発生圃場率が20.0%、寄生株率が0.4%と、平年(8.8%, 0.3%)に比べてやや高い。
- (3)10月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7地点の平均)は、ほぼ平年並に推移している(図2)。
- (4)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

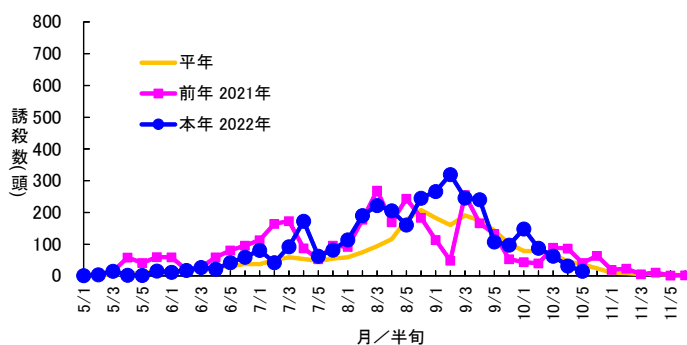


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
* 徳島市, 石井町, 阿波市, 吉野川市の7地点平均

オオタバコガ (8月31日付で技術情報を発表)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1)10月第5半旬における冬レタスの巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.3%、寄生株率が0.0%)。
- (2)10月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6地点の平均)は、平年に比べてやや多く推移している(図3)。
- (3)高松地方気象台が10月27日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)結球野菜では、幼虫食入後は薬剤の効果が無いので、結球直前までに、使用基準に基づき必ず薬剤防除を行う。

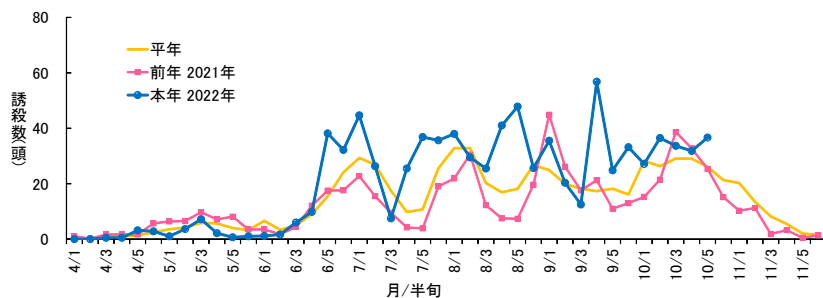


図3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移
*阿波市・三好町・東みよし町・石井町の6地点平均

II. その他

1. 薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守すること。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報，発生状況，防除法等をお知らせしています。